

第141回日商簿記2級<予想祭+補講>

1. 下記の有価証券に関する一連の仕訳を行いなさい。決済科目の指定のない場合は現金で処理しなさい（なお、科目は適当な科目を使用して下さい）
※学習確認用のため、現金をCと記入しても良い

当社およびB社の決算は3月末日とする

<第1期（×6年4月1日～×7年3月31日）>

- ① 4月1日満期保有目的でB社社債を発行と同時に95,000円で購入した
B社社債（額面100,000円、利払日毎年9月末日と3月末日に各2,200円、償還期限5年）当社では償却原価法定額法により当社債を評価している

- ② 9月末日、B社の社債利息の期限が到来した。

- ③ 12月1日、売買目的でA社社債を購入した。端数利息とともに当社発行の小切手で97,800円を支払った。
A社社債（額面100,000円、利息7.3%、利払日毎年3月末日）

- ④ 決算につき必要な処理と利息の決済を行った。
A社社債の時価：97,000円
B社社債の時価：95,000円

<第2期（×7年4月1日～×8年3月31日）>

- ⑤ 期首の仕訳を行いなさい。当社は売買目的有価証券を洗替法を実施している

- ⑥ 5月10日C社株式1,000株を売買目的で@300円で購入した。証券会社10,000円の手数料とともに現金で支払った。
- ⑦ 6月30日C社株式1,000株を@320で追加購入した。証券会社への10,000円の手数料とともに現金で支払った。
- ⑧ 7月31日A社社債を当日の時価98,000円で売却した。端数利息とともに普通預金に入金された。
- ⑨ C社株式500株を150,000円で売却した。尚、C社株式は平均法で評価している。手数料は考慮しなくても良い。
- ⑩ 決算処理を行った（利息の決済は不要です）
B社社債の時価：93,000円
C社株式の時価：@350円

2. 当社が切放法を実施していた場合、第2期の期首の仕訳はどのようになりますか？

3. B社の第1期、第2期末の決算仕訳を行いなさい（利払いの仕訳は必要ない）。
社債の発行価額と額面額の差額は金利調整差額であり、B社では償却原価法定額法により社債を評価している。発行時に社債発行費5,000円を支払い原則的な会計処理で記帳している。

<第1期>

<第2期>

4. 次の貸倒引当金に関する一連の仕訳を行いなさい

<第1期>

- ① A社に 100,000 円の掛け売りを行った。

B社に 200,000 円の掛け売りを行った。

- ② A社が事実上の倒産状態となり、売上債権が回収不能となり全額損失を計上した。

- ③ C社に 50,000 円の掛け売りを行った。

他の取引先に、合計 50,000 円の掛け売りを行った。

- ④ Z社より 30,000 円の仕入を行い為替手形を振り出し、C社引受のうえZ社に手渡した。

- ⑤ 一般債権（B社、C社および他の取引先への売掛金は一般債権である）に 55/1000 の貸倒引当金を設定した

<第2期>

- ① A社の債権のうち 10,000 円が回収できた。

- ② B社の売掛金が普通預金に 199,500 円入金された。なお、B社との契約では振込手数料は当社負担の契約となっている。

- ③ 取引先の1社の売掛金（一般債権）11,000 円が回収不能状態になった。

- ④ C社より掛代金 20,000 円が振り込まれた。

- ⑤ 他の取引先に合計 300,000 円の掛け売りを行った。

⑥ 一般債権（他の取引先への売掛金は一般債権である）に 55/1000 の貸倒引当金を設定した（差額補充法）

⑦ ①で使用した収益科目の損益計算書上の表示区分を教えてください

<参考>弊社「弥生検定攻略テキスト」より

損益計算書	
I 売上高	…説明は不要ですね
II 売上原価	…事項で解説
<売上総利益>	…取扱商品の収益力を示す。粗利益とも呼ばれる
III 販売費及び一般管理費	…次ページ以降で解説
<営業利益>	…営業活動の成果である本業の収益力を示す
IV 営業外収益	…受取利息等
V 営業外費用	…支払利息等
<経常利益>	…利息等の財務損益もあわせた、日常的な経営活動の成果を示す
VI 特別利益	…固定資産売却益など
VII 特別損失	…固定資産売却損など
<税引前当期純利益>	…法人税等の計算の元になる利益を示す
法人税、住民税および事業税	
<当期純利益>	…配当原資の最終利益を示す

製品勘

<商業>	
期首商品棚卸高	1,000
当期商品仕入高	15,000
合計	16,000
期末商品棚卸高	2,000
売上原価	14,000

例

<製造業>	
期首製品棚卸高	1,000
当期製品製造原価	15,000
合計	16,000
期末製品棚卸高	2,000
売上原価	14,000



電卓を製造している会社は製造業に該当しますので「製品」という科目を、電卓をメーカーから仕入れている会社では「商品」という勘定科目を使用します。

決算が3月末の会社を例にしてみましよう。上記の例では、4月1日に倉庫に1,000円分の電卓の在庫があり、当期に倉庫に15,000円分の電卓が入荷されました。全部売っていた場合は16,000円が売上原価（売上の元になった金額）になりますが、残念ながら2,000円分の在庫が残っていました。

という事は売上原価は14,000円だったという訳ですね。

5. 株主資本等計算書の解き方

第138回を例に説明します

- ① まず仕訳をする
- ② 純資産科目に○をつける
- ③ 借方はマイナス項目(△)
- ④ 資本金の1/4まで積み立てる。その段階での資本金で計算する事

チャレンジ問題

前期期首に取得した備品（取得価額 150,000、決算整理前試算表の減価償却累計額 52,000 円、耐用年数 10 年、定率法：償却率 20%）の減価償却費につき、決算時の仕訳を行いなさい。尚、当社は月次で減価償却費の計上を間接法により行っている）

チャレンジ問題 2

決算整理前残高試算表の仮払消費税勘定、仮受消費税勘定、仮払金勘定（消費税の中間納付額）の残高はそれぞれ 300,000、650,000、180,000 であった。消費税申告書で計算された当期の納付額は 345,000 円（中間納付額を控除した納税予定額は 165,000 円）であった。当期の消費税計上の仕訳を行いなさい。なお、差額が生じた場合は雑収入・雑損失勘定を使用しなさい。

6. 本支店会計

<第136回を例に説明します>

この問題が内部利益を付加していなかったら、どうなるか？

未達事項（1）

本店側の仕訳（処理済） 支店 172,500 / 仕入 172,500
支店側の仕訳（未処理） 仕入 172,500 / 本店 172,500

<本支店会計で内部利益をなくすと、どういう問題が考えられるか>

決算整理事項の項目を本店に絞って、第137～140のような問題が考えられる

138回の問題の確認事項

返品未処理と期末棚卸の関係

未払費用の処理（137回と同様）

前払費用の処理

減価償却の月次決算処理

140回の問題の確認事項

受取手形の貸倒損失（訂正仕訳からしっかり対応しよう）

返品未処理

<おまけ>

第二問で本店側・支店側の一連の流れの仕訳が問われる可能性もあるでしょう

支店の利益を本店に振替える際の仕訳を押さえておこう（かなり余力ある方）

・個人 商店：損益 / 資本金

・一般 法人：損益 / 繰越利益剰余金

本支店会計：（支店側）損益 / 本店（支店の損益を本店 a/c へ）

（本店側）支店 / 損益（支店の利益を本店の損益 a/c へ）

この処理で支店の利益が本店の利益に振替えられる

第一問の仕訳で本店集中計算制度が問われた場合のために、「2級商業簿記ポイント講座」を確認しておいて下さい

7. 精算表→財務諸表→決算3勘定

135回の精算表の解答から解説します

精算表が作成できる→P/L問題対応可能
B/S問題対応可能

精算表が作成できる→損益勘定、繰越利益剰余金勘定、繰越試算表（決算3勘定）が作成できる

解答作成方法

決算整理後 T/B（仕入勘定は売上原価を表す）を元に損益振替・利益振替を行う

- ① 損益勘定は損益計算書と考えて処理しよう
当期純利益は「繰越利益剰余金」になります（損益勘定の相手科目）
- ② 繰越利益剰余金は以下の流れをベースに記帳する

前期末	配当でマイナス	利益でプラス	期末
100,000	△20,000	+40,000	120,000
	利益 J 20,000 / 未払配当金 20,000	損益 40,000 / 利益 J 40,000	

繰越利益剰余金

5/28 未払配当金 20,000	4/1 前期繰越 100,000
80,000 円が前T/B	3/31 損益 40,000

- ③ 繰越試算表はB/Sと同じ